

平成27年（2015年）は、普照院が兵庫の地に建立されてから650年になります

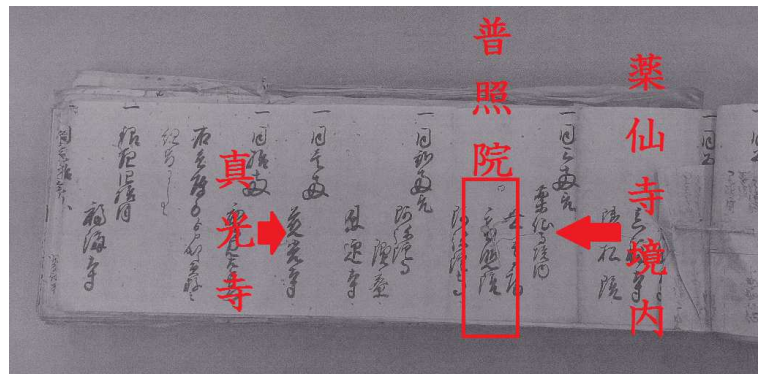
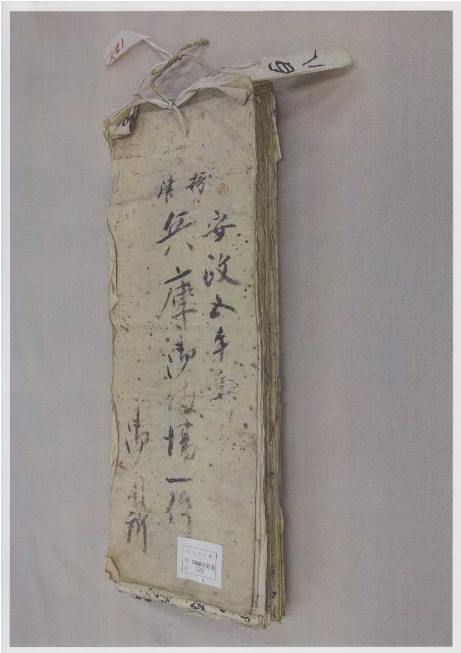
明治維新前の、当寺院名記載の資料を発見！

今年の春頃、当寺院に郷土史家の方が来られました。お話をお伺いすると、明治維新前後の兵庫津近辺の資料を収集されているとか。私も当寺院の住職になってからというもの、

この兵庫津の様々な郷土史を知ることとなり、とても興味を持って情報交換をさせていただきました。

とは言っても、私の知識など全く比較にもならず、お話を始めるとその方は本当に驚くほど貴重でたくさんの知識と資料をお持ちでした。

特にその中で私の目を引いたのは、この2枚の写真です。



（2枚の写真とも、山口県文書館所蔵 毛利家文庫「摂津兵庫御備場一件」より）

この古文書（安政5年・1858年）は江戸時代後期、幕府より海防警備の命を受けた長州藩がその藩兵の駐屯先として、兵庫津にあった複数の寺院を充てた際の一覧表になります。

そして、その中にはしっかりと当寺院『普照院』の名が記されてありました。

この古文書は今でも山口県文書館に大切に保管されているそうで、自分たちの菩提寺が実際の日本史の一ページに記されているのだと思うとワクワクすると同時に、その当時の自分たちのご先祖様が何を見て、そして何を感じながら生活されていたのだろうかと思像巡らすことで、過去からの絆を感じることができます。

さて、これから日本はさらに少子高齢化が進んでいくことでしょう。しかし100年後、200年後も世界がそして日本が今と変わらず平和であり、その時代に住む自分たちの心を受け継いだ未来の人達に、この平成27年を生きた私たちが感謝され、そして絆を感じてもらえるように今をしっかりと生きなければなりません。

今年もお盆が来ると、ご先祖様がこの娑婆世界（皆様のお家）に戻ってこられます。ご子孫がおられない仏様も、自分たちの終（つい）の棲家（すみか）である菩提寺・普照院へ戻ってこられます。その帰ってこられたご先祖の皆様全てをお送りする、8月16日（送り火）施餓鬼法要へは、お時間が許す限り是非お参り下さいませ。

今こそ葬儀は本堂で

昨年秋に『月刊住職』という僧侶専門の月刊誌の記者が当寺院に来られ、『これからはお寺での葬儀を』というテーマで取材をされていきました。

当寺院としても平成21年の移転にあたって、特に新しい本堂を設計する上で最も重要な項目として位置づけていた「葬儀のできるお寺」というコンセプトに目をつけていただいたこともあり、その取材には大いに協力させていただきました。

その後、雑誌掲載期間中は記事の複写ができませんでしたので、今夏にやっと皆様にご覧いただくことができました。(同封チラシ)

【左写真は、建築時本堂内全景】

以前からも色々な場面で皆様にはお伝えしておりましたので、今年に入ってからには神戸市内の檀信徒のほとんどの方は本堂でご葬

儀をお勤めされています。そしてその本堂葬儀をされる方の大半が事前にご相談されており、その相談の中で「想像していた事と、全く違った。」「巷で見聞きするものとは、全く違った。」といったご意見が多く聞かれます。

このように皆様が葬儀式に関して、ご年齢を問わず知らないことばかりなのは当然です。菩提寺というものは、本来皆様のためにあるものなのですから、いつでも、何でも、気兼ねなく、そして神戸市外の方でもご相談下さい。

〔編集後記〕いつの間にか、この寺報も40号になりました。いつもお参りの際などにこの紙面の感想をお伝えいただき、とても励みになっています。さて今年も年始から、日本のみならず海外からも大きな地震や火山の噴火などの天変地異の情報が絶え間なく流れてきています。そしてその度に、自然の驚異を再確認させられると共に、自分自身が生かされているのだということを否応なく考えさせられます。常日頃から災害に備えると共に、私たちは大自然の恩恵によって生活させてもらっていることに、日々感謝することを忘れないようにしなければなりませんね。 合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院]

責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話・ファックス 078-671-1787

ホームページ <http://fusyojin.com/>

● facebook ページ『普照院』、随時投稿中です。 



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげてください。

